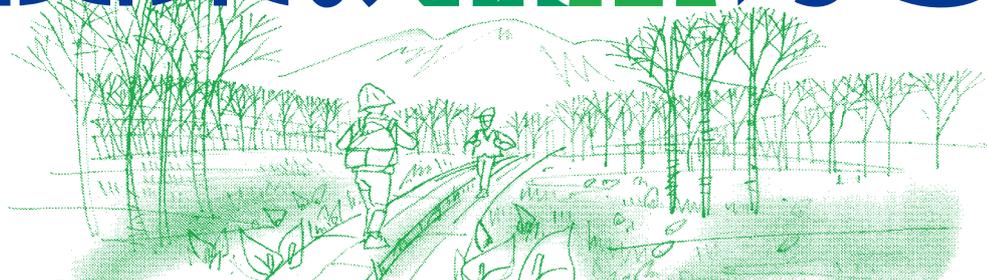


平成20年11月1日

第56号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL (027)210-1158

FAX (027)210-1159

<http://www.kanto.kokuyurin.go.jp/>



那須岳の紅葉

(栃木県那須郡那須町)

(撮影：塩那森林管理署 中村 聖子)

美しい森林づくり

「森林整備に向けた局・署の取組について」

森林整備課課長補佐 高村 和三

私の視点

「森林ボランティア活動を通じて」

野生生物愛護ネットワーク 代表 足立 勇氏



広報「関東の森林から」は、日本の森林を育てるため間伐材を使用しています。



森林整備に向けた局・署の取組について

森林整備課長補佐 高村 和三

森林は水資源のかん養、国土の保全や二酸化炭素の吸収・固定など地球温暖化の防止機能等、多くの公益的機能を発揮しています。このようなことから、関東森林管理局では、森林吸収源対策としての間伐実施の強化をはじめ、スギ、ヒノキ林の長期化、針広混交林化等の施策を通じて「美しい森林づくり」運動を推進しています。



伐採跡地で天然更新樹種の発生状況の観察



保育間伐実行箇所で光環境改善のための伐採強度の検討

るためには、現地に応じた施業の企画と適切な実行が重要ですが研修生は、この研修を通じて、森林整備の意義や方法等について良く理解できたものと期待しています。

また、各現場においても適切な森林整備のための検討が積極的に行われており、本年8月には福島森林管理署白河支署において、森林官と関係職員による「保育間伐等現地検討会」が開催され、局からも担当者が出席し、活発な意見が交わされました。検討会は、保育間伐実行箇所で、標準地の設定や伐採木の選定等実行上の課題や問題点について議論が行われ「林内の光環境の改善による林床植生の回復を図るためには、強めの間伐を実施すべきではないか」等の意見が出されました。

さらに、森林被害対策の面では当局管内各地の国有林において、ツキノワグマやニホンジカによる剥皮被害が大きな問題となっており、特にクマの被害については、良材が被害にあい枯損木が目立ってきています。



ツキノワグマによる剥皮被害



クマ対策を行ったスギ林

被害の防止については、被害の把握、防除対策の確立、自治体と協力した個体数調整等、総合的な対策が求められており、群馬県内の国有林においては、間伐等を行って林内が歩きやすくなると被害が増加する傾向にあるため、間伐等の実施に併せて、クマの嫌うビニールテープを立木に巻き付ける等の対策を実施しています。

また、利根沼田署においては、研究者、県、地元市町村、森林組合等の参画の下、「獣害対策検討委員会」が開催され、実態の調査と対策の検討が重ねられています。

このように、当局では、局・署の各段階で「美しい森林づくり」のための森林整備に向けた取組を行っています。

9月末から10月上旬にかけて、現場第一線で「美しい森林づくり」の実行を担う、採用後2～5年の職員26名を対象として「森林の育成（造林・育林）」研修を実施しました。この研修は、次代を担う若い職員に森林の育成についての基礎的な知識や技術の定着を図ろうとするもので、その大半を、現地において保育間伐箇所の調査や除伐作業等の実習に当てました。適正な森林整備を推進す

「低コスト恒久的作業路網 現地検討会」を開催

10月1日(水)、下越森林管理署村上支署管内の熊登山国有林で「低コスト恒久的作業路網現地検討会」を、新潟県の林業担当者を始め、森林組合関係、請負事業者、森林管理署等から120名参加のもと開催しました。

開催にあたり、河野森林整備部長から「間伐などの整備を進めながら、充実しつつある森林資源を活かし、真に国産材時代を築いていくには、作業システムの効率化が不可欠。これからはコストと安全からみても可能な限り車両系システムが主流となるべきではないか。このため、森林の保全にもつながる低コストで壊れ



参加者に作業方法の説明



「表土ブロック積工法」の講習状況

にくい作業路の作設・導入を推進したい。」と挨拶がありました。

検討会では、当局における四万十式作業路網の第一人者である講師の中岡群馬森林管理署長から表土ブロック積工法、根株の取扱いなど作業路の特徴について説明があり、その後、技術を習得した講師オペレーターによる実演と、技術取得のための林業事業者のオペレーターを対象とした講習会を実施しました。

参加者の多くは四万十式作業路の作設を見るのが初めてで、熱心に見学されており、関心の高さと期待の大きさがうかがえました。

今回の低コスト恒久的作業路網をベースとして、今後も各地域に適した作業路網の普及と作業システムの効率化を図っていくこととしています。
(販売課)



発表する塩那森林管理署
角田治山第一係長

第48回 治山研究発表会の開催

9月24日(水)
25日(木)、治山研究会主催の治山研究発表会が東京都代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターで開催され、県森林管理局、コンサルタント会社等が参加しました。

発表課題は「治山計画の取組」「緑化、木材利用の取組」「地すべり、災害対策等の取組」「コスト縮減、環境への配慮等の取組」の4つのセクション別に計48課題の発表がおこなわれました。
当局からは塩那森林管理署の角田治山第一係長、森治山課長による「環境保全に配慮した地すべり防止工事の実施について」及び山梨森林管理事務所の川井野呂川治山第一事業所



猛禽類に配慮して、防音シェルターで覆ってトンネル排水工を実施(写真はシェルターの入口、トンネルの入口はシェルター内にある)

(塩那森林管理署管内)

主任、井上同事業所係員による「野呂川ゴウロ沢復旧治山工事のコスト縮減の取組みについて」の2課題を発表しました。
詳細については、後日ホームページに掲載する予定です。
(治山課)



機械施工によりコスト縮減が図られ、かつ、安全に施工できた(急斜面でも自走できる高所作業法切機械の作業状況)

(山梨森林管理事務所管内)

赤谷プロジェクト近況報告

環境教育ワーキンググループ会議の開催

9月18日(木)、平成20年度第2回環境教育ワーキンググループ会議が開催され、赤谷プロジェクト地域協議会、(財)日本自然保護協会、関東森林管理局や赤谷センターの担当者が出席しました。

このワーキンググループでは、「赤谷の森」でしかできない環境教育の手法を検討し、赤谷プロジェクト独自の環境教育プログラムを作成することを目指しています。

今回は、現在「赤谷の森」で赤谷プロジェクト中核3団体が実施している環境教育の内容、対象者、目標等について整理を行い、それぞれのポイントや課題について話し合いを行いました。

この結果、当面は「赤谷の森」で活用できる環境教育の素材や施設を掘り起こすとともに、活動拠点である「いきもの村」の整備についても引き続き検討を進めて行くこととしました。



「赤谷の森」における環境教育について論議

JICA海外技術研修生の受け入れ

昨年に引き続き、森林技術総合研修所が実施している平成20年度海外技術研修「持続可能な森林経営の実践活動促進Ⅱ研修」の「参加型森林経営手法」の現地講義の一つとして、「いきもの村」や法師温泉においてJICA海外技術研修生に赤谷プロジェクトの取組を説明しました。



サポーター活動の説明
炭焼きには高い関心がありました

官民が協働で森林管理を行う試みは、海外ではあまり考えられないようで、何度も「立場は対等なのか」との質問がありました。その他、無償で調査研究活動に従事するサポーターの方々の活動が持続的に継続する理由など、熱心な質問が相次ぎ時間が足らなくなる程でした。

また、法師温泉では地域と水源・温泉源である森林との関係について、説明を行いました。



各国からの研修生の皆さん

研修生は、母国に帰れば森林・林業分野におけるリーダーとなる方々であり、赤谷プロジェクトの取組を母国での住民参加型の森林管理に活かして欲しいと願ってやみません。

平成20年度 第1回企画運営会議の開催

9月29日(月)、みなかみ町役場において、平成20年度第1回赤谷プロジェクト企画運営会議が開催されました。

当日は、赤谷プロジェクト地域協議会、(財)日本自然保護協会、関東森林管理局に加え、オブザーバーとして群馬県利根沼田県民局、みなかみ町、環境省中部地方環境事務所の担当者も出席しました。

今年度の赤谷プロジェクト事業計画や茂倉沢治山工事計画などについて話し合われた後、関東森林管理局からは、赤谷プロジェクトの植生管理や猛禽類モニタリングなどの各ワーキンググループごとに、見える結果を出していく取組として、中短期目標の設定について提案がありました。

また今回からは、赤谷プロジェクトの目標である「持続的な地域社会づくり」に取り組むため、県との連携も深めることを目的に、群馬県からも渡利根沼田県民局長にオブザーバーとして出席して頂きました。渡局長からは、「地域振興に関して、出来る限り赤谷プロジェクトに協力していきたい」との心強い挨拶がありました。今後も赤谷プロジェクトの取組をより一層、地域に浸透させていきたいと考えています。



地域協議会、岡村会長の挨拶

各署便り

第10回

トレイルランニングを開催

〔上越署〕8月24日(日)、笹ヶ峰高原(標高1,300m)において当署、妙高市等が主催して「第10回妙高高原笹ヶ峰トレイルランニング」を開催しました。

このイベントは、準高所トレイルランニングの普及と森林の持つ多様な機能への関心を深めていただくために開催したもので、最短3kmから最長15kmまでの距離別ランニングや、3kmのウォーキングに合計700名のエントリーがありました。



高原を駆け抜ける選手たち

あいにくの小雨模様の中、ゲストランナーの千葉真子さんから、「皆さんの心が晴れ晴れしますように」と挨拶があり、レース後も気さくにサインに応えるなど大会を盛り上げていただきました。

表彰式頃には、雨も上がり、参加者からは「ウッドチップが敷いてあって走りやすかった。また、走ってみたい。」などの声が聞かれました。

また、この大会前日には、160名のエントリーを得て、標高差500mを駆け登る「笹ヶ峰山岳ロードレース」を開催しましたが、トレイルランニングと同様に好評でした。

なお、北京五輪男子マラソンの佐藤敦之選手も事前合宿で訪れるなど数多くの実業団・大学等が、準高所トレイルランニングに笹ヶ峰高原を訪れるようになっていきます。

(流域管理調整官 山下 聡)

谷川岳グリーンサポート スタッフが活動

利根沼田署 8月の夏休み時期から10月の紅葉時期まで、谷川岳にて当署が依頼している4名のグリーンサポートスタッフが活動しています。

グリーンサポートスタッフは2人一組となつて、特に観光客が多い谷川岳へ登る登山道と一の倉沢に登る道をそれぞれ巡回し、登山者にゴミ



グリーンサポートスタッフの活動

の持ち帰りや高山植物を採取しないなど、登山マナーについての啓発を行っていますが、他に登山コースに関する案内や高山植物の名前などの質問にも丁寧に答えるなど登山者から感謝されています。

また、手作りのしおりなどの配布も子供達に非常に好評です。

谷川岳へ登山に行かれた折に、グリーンサポートスタッフを見かけましたら気軽に声をかけてみてください。

(業務課長 大澤 学)

富士山頂で清掃活動 (静岡県側山頂)

〔静岡署〕去る9月6日(土)、県が主催する「富士山ごみ減量大作戦(山肌清掃)」に当署から署長、管轄する表富士森林官他2名の合計4名が参

加しました。

静岡県側では、昨年からの活動が開始され、本大作戦の協力機関である当署の他、地元市町、環境省、浅間大社、山岳連盟、登山組合等から約70名が参集しました。

当日は、富士宮口5合目から早朝3時30分に登山を開始し、天候に恵まれたため、途中御来光を拝みながら、集合時間の10時前には4名とも浅間大社奥宮前に到着、山頂(剣が峰)までの清掃活動に汗を流しました。

午前中には作業を終えましたが、2時間程度の活動でガラスやプラスチック類、ナイロン袋、衣類、鉄くずなどおよそ1トンものゴミが集まりました。

夏山シーズンもほぼ終え、すっかりきれいになった山肌は、また来シ



浅間大社奥宮前に集り清掃活動開始

ーズンも日本全国、世界各国からの登山者を迎える準備ができたことと喜んでいました。

(広報連絡官 谷山博則)

国民の森林 クリーン活動を実施

日光署 9月26日(金)、益子町内の県道山本・下大羽線沿線の国有林内で益子町役場の協力を得て、「国民の森林クリーン活動」を実施しました。

この取組は3年目になり、益子町職員5名、日光署9名の計14名が参加しました。

約2時間の活動で集められたゴミは、ビン・カンなどの不燃ゴミが540キログラム、可燃ゴミが1110キログラムにも及び町の準備した軽トラックで処分場に運び込まれました。



「国民の森林クリーン活動」で回収されたゴミ

このほか当署では、職員の協力を得て、日光市内の2箇所でも不法投棄されたゴミのクリーン活動を行っており、今年度回収、処理したゴミの合計は軽トラック延べ6台分となりました。

不法投棄は後を絶たないことから、地元の幅広い方々の協力を得ながらパトロールや回収等の活動を継続して行きたいと考えています。

(業務課長 益子好恵)

低コスト作業路現地 検討会が開催される

吾妻署 9月9日(火)、「低コスト作業路現地検討会」が当署管内の須原国有林で自治体、請負事業者等関係者60名を超える方々が参加して開催されました。

開催にあたり、小林関東森林管理局長から「国産材の活用や木材生産の低コスト化に作業路網の充実は不可欠。この検討会が技術習得のきっかけとなり、今後は参加者が講師として活躍されることを期待したい」旨の挨拶がありました。

検討会では、実際に開設された作業路を見学しながら、講師の中岡群馬森林管理署長より、現地の地形や土質そして気候に対応した壊れにくい作業路のポイントである、①線形の設定、②水処理の仕方、③表土ブ



群馬署長の説明を熱心に聞く参加者

ロック積み工、④根株積み工等の説明が行われました。

また、岡本オペレーター(四万林業協業組合)による「洗い越し工」の実演後、各請負事業者の代表者がバックホウを操作し、低コスト作業路開設に意欲を見せていました。

(販売係 藤原智史)

「木と暮しのふれあい展」 が開催

東京事務所 10月4日(土)、5日(日)の両日、秋晴れの木場公園において「第28回木と暮しのふれあい展」(主催東京都・社)東京都木材団体連合会)が開催され、当所も協賛して国有林のPRに努めました。

この催しは、都民に木と触れあえる機会を提供し、木に対する理解を

深めていただくとともに、木材の需要拡大を図ることを目的としています。

当日は、東京都の各木材団体等により木製品の展示販売、木工教室、木造住宅相談、アトラクション等が行われ大勢のお客様が来場されました。

当所の出展テントでは、小枝のモックンやどんぐりのトトロ人形作り等を行い、親子連れや子供たちで大変賑わいました。



親子連れで大賑わい

(東京事務所 北中博久)

相模女子大小学部を 迎えて森林教室

東京神奈川署 10月3日(金)、秋晴れの箱根西岸、畑引山国有林で相模女子大小学部4年生56名を迎えて植樹と森林教室を行いました。



丁寧に植付をする子供たち

ここ箱根の国有林で、1973年から続いている、相模女子大小学部
の植樹は今年で36回目になります。
今年は風倒木により出来た空間に、
箱根で採取された種子の苗木である
イロハモミジ、ホオノキ、ミズナラ、
ヤマボウシ、ヤマザクラ、キハダの
6種類の広葉樹60本を、生徒達が2
人1組になり持参のスコップで植え、
「地球温暖化防止に役立った」と喜ん
でいました。

クラスごとに記念撮影後、森林教
室を行い地球温暖化の説明や森林の
役割について話をしたところ、生徒
達からは「根の大きさはどの位か」
「木はどの位の高さに成長するか」「何
年くらい生きていくのか」など多く
の質問がありました。

箱根も朝夕はめっきり寒くなり、
これから紅葉の時期になります。

小学生らが伐採を体験!

植えた木がしっかり根付き、来春に
はきれいな新緑を見せてくれること
を願いながら森林教室を終えました。
(広報連絡官 石井正夫)

天竜署 10月4日(土)、秋晴れの下、
浜松市天竜区龍山町の瀬尻国有林に
おいて、浜松市との共催による森林
感謝祭「フォレストコンシャスはま
まつ」を開催しました。

当日は、午前10時から、1000人
を超える参加者が開会式に臨み、そ
の後、ヒノキ林に入り間伐などの重
要性や伐り方の説明を受け、メイ
ンイベントの伐採を体験しました。子
供から大人まで、慣れない手つきで
真剣に鋸を引いていました。

特製の鍋料理とともに昼食を済ま
せ、午後のプログラム①森林ガイド
ウォーク②ネイチャーゲーム③ネイ
チャークラフト④間伐デモ&体験に
それぞれ分かれて参加しました。人
気が高かったのは、植栽後約120
年となるスギの人工林である瀬尻展
示林を会場とした「森林ガイドウォ
ーク」でしたが、他のプログラムの
参加者もそれぞれ楽しんでいました。

最後に参加者全員で記念植樹を行
い、午後3時に無事閉会となりました。
今回のイベントを通じて、少して

も森林・林業に理解が得られたもの
と考えており、改めてイベントの重
要性を感じた一日でした。



真剣に鋸を引く小学生

(広報連絡官 藤原寿昭)

「さけの森林(もり)づくり 活動」行われる

村上支署 10月4日(土)、全国に誇
る鮭の川である新潟県三^み面川^{あがわ}流域の
国有林で、「さけの森林づくり」整備
活動が行われました。

「さけの森林づくり」は、古くか
ら鮭漁が盛んな三^み面川^{あがわ}を、さけの川
として未来の子供達に引き継ぐため、
平成11年に三^み面川^{あがわ}鮭産漁業協同組合
を始め15団体による「さけの森林づ
くり推進協議会」が設立され、その
後、豊かな川や豊かな海づくりに森
林がいかに重要であるか啓発するた

め毎年行われており、第8回となる
今年も、首都圏に生活している村上
市朝日ふるさと会を含め、一般ボラ
ンティア、緑の少年団など133名の
参加となりました。

開会式の村上市長、関東森林管理
局長の挨拶の後、一般ボランティアの
方は林内で植付やブナの刈出し、緑
の少年団は森林教室に参加し、当支
署職員手作りによる土壌の濾過装置
の実験を行い、森林の働きに感心す
るとともに、この活動が三^み面川^{あがわ}をき
れいにしていることを実感した様子
でした。

午後は天候を気にしながら、いつ
までも三^み面川^{あがわ}が豊かな「さけの川」
であることを願い、熱の入った作業
により予定したブナの刈出し作業を
終了することができました。



緑の少年団とブナを植える小林局長

(業務課 杉山茂人)

森林官からのおたより

天竜森林管理署 三ヶ日森林事務所

森林官 糸永 亘児



三ヶ日森林事務所管内の国有林は、「うなぎ」で有名な浜名湖の北西に位置し、三ヶ日町から隣接する湖西市の北部まで、浜名湖を扇状に取り囲み、管内最高峰の富幕山は標高563メートルと比較的ならかな約2,200メートルを管轄しています。

浜名湖の雄大な景色を楽しむことのできる「奥浜名自然休養林」は、浜名湖を一望できるキャンプ場やパラグライダー場もあり、行楽地として多くの人々に親しまれています。また、隣接する気賀森林事務所管

管内は、ヒノキを中心とした人工林が7割近くを占める中、シイ等の照葉樹林が点在しています。また、国有林周辺の里山では、「みかん畑」が多く見られます。



富幕山から望む浜名湖

内から当事務所の富幕山までの「奥浜名自然歩道」をはじめ、「多米峠歩道」や「湖西連峰遊歩道」など、管内のあちこちに歩道が整備されており、春や秋には多くのハイカーで賑わいます。

当事務所の大きな間



地元と連携したクリーン活動

題として、ゴミの不法投棄が挙げられます。愛知県との県境の峠付近には、日用品、粗大ゴミ、産廃など様々な物が捨てられ、地域の悩みの種となっています。

先日、署の主催で市や地元住民と連携したクリーン活動を行いました。春や秋には多くのハイカーで賑わいます。当事務所の大きな間

ならず、心ない輩の行為にそれらを台無しにされてしまい、非常に心が痛みます。前述のクリーン活動をはじめ、不法投棄の防止に様々な策を講じていますが、万全とは言えず、今後も継続した活動が必要だと考えています。里山の森林では、多種多様な問題が山積していますが、地域と連携して解決していくことが、国有林として地域の活性化に繋がると考えており、今後も様々な機会を通じて、関係を深めていきたいと考えています。



宇利峠の山桜と眺望

私の視点

「森林ボランティア活動を通じて」

野生生物愛護ネットワーク代表 足立 勇

例年がない大雪が降った昭和58年冬、家の裏山に広がる国有林から飢えた野生の鹿が姿を見せ、野菜くずを与えてしまった事がボランティアにのめり込むきっかけでした。

その時出会った人たちと、平成2年の春に、野生獣などを救済するボランティアグループ「野生生物愛護ネットワーク」を立ち上げ、日光国立公園内で密猟者の設置した鹿の捕獲わなの撤去を行ってきました。

そして、奥日光西ノ湖の奥で樹皮を剥がれたウラジロモミの大き木をカ



小学生によるシカネット巻き風景



ツツジ群生地の森林整備作業

メラに収め、国有林を管理している、現在の日光森林管理署に知らせた事で、平成5年秋から奥日光一帯で鹿食害防止ネット巻き作業を行うようになり、現在も続いています。

また、野外体験に来た多くの小学生に、森の中で水や緑を守り育てる大切さを話し、安全を確認しながらネット巻きを教えるようにもなり、後日、日光森林管理署を通じて子供たちからの手紙や感想文が届き、私たちの大切な宝物になっております。森林整備のきっかけは、昭和57年

5月に、栃木県で行われた全国植樹祭で、昭和天皇がお手播きされたスギの苗五十本が、他の苗三千本と共に、日光市荒沢の国有林に植えられ、当時の森林官から枝打ちの指導を受け、その後、6年かけて高さ7.5メートルまで枝を落とし、手入れした森林は暗い森から明るい立派な森に生まれ変わりました。長く続けた枝打ち作業で学んだ事は、木を育てるという事は、自分の子供を一人前に育てることと全く同じであるということでした。

栃木県内には、近年、多くの森林に関心のある人たちが会を作り活動していますが、私たちの野生生物愛護ネットワークでは、自分達の会だけでなく、森林整備等の作業を行なう他の会のリーダー達と連絡し合い、メンバー達と共に汗を流し、交流を深めて活動しています。

平成12年に、日光森林管理署と野生生物愛護ネットワークが始めた活動に、日光市丹勢山の国有林でのツツジ山森林整備があります。

平成19年からは日光市も加わりヤマツツジの咲く時期に、40名の一般ボランティアを募集して、ツツジ

の群落を守り育てるために、下草刈りや雑灌木等の整備に汗を流して作業しています。景色が良いことから、応募者が多く好評となっております。秋の紅葉時期にも実施しております。野生動物の救済から始まった私達のボランティア活動は、現在では、緑を守り育てる活動へと変わってきました。

今後も、日光森林管理署の方々や多くの仲間達と共に、私達に多くの恩恵を与えてくれる森に感謝しつつ、少しずつ恩返しを続けていきたいと思っております。



ボランティア活動に参加した皆さん

第二回 国有林野事業見学会

関東森林管理局では、森林・林業・国有林野事業について理解を深めていただき、「美しい森林づくり推進国民運動」に資するため、平成20年度においても国有林野事業見学会を年三回実施しています。

第三回目は、10月5日(日)に「治山事業見学ときのご観察会」と題して、群馬県沼田市の「赤城水源の森」で実施しました。今回の参加者は十五名で、群馬県野生きのこ同好会から講師2名をお招きしました。

一枚の写真



おが山塊と日留賀岳(写真中央)

栃木県塩原温泉北方の那須塩原市と日光市(鬼怒川地区)の界近くにそびえる日留賀岳(標高1,849メートル)は、福島県境の男鹿岳やこの地域最高峰の大佐飛山(標高1,908メートル)などとともに男鹿山塊といわれる山々の南端に位置しています。

あまり目立たない山ですが、静かな山を求める登山者に大変人気があります。登山口は中塩原から1.5キロほど北の白戸という集落にあり、永年日留賀岳登山の安全等に尽力いただいている民家の駐車場が起点となります。

ここからの行程は片道約3時間半の長丁場、ヒノキやカラマツなど



きのこについて、講師の説明を聞く参加者の皆さん

はじめに、赤城水源の森の河川に建設された治山工作物の見学を行いました。

中越地震と岩手・宮城内陸地震被災地の状況と復旧の様子の写真を見



採取された「アカモミタケ」

てもらい、同じ工法の工作物が作られていることや、関東森林管理局職員も被災地に派遣されたことを説明しました。

参加者のみなさんも、地震や台風は身近で起きる災害であるため、熱心に聞いていただきました。

次に、参加者は山に入り、きのこ採取を行いました。採取したきのこは、講師が鑑定を行った後、それぞれのきのこの特徴や毒性についての説明がありました。これからのきのこ狩りにも大変参考になるため、参加者の皆さんも熱心に耳を傾け、盛況な観察会となりました。

(指導普及課)

まで眺望され、眼下には塩那スカイラインが見渡せます。

最高峰の大佐飛山を含め日留賀岳周辺は、ブナやコメツガ、オオシラビン等の原生的な森林が広く分布し、下層にはアスマシヤクナゲやツバメオモトなどの可憐な花が多く見られる宝石箱のような自然林となっており、大佐飛山地植物群落保護林として手厚く保護されています。

(塩那署 中塩原森林官 小林 誠)

発行所 関東森林管理局
編集 総務課

TEL(027)2110-1158
FAX(027)2110-1159

